

南足柄市立岩原小学校

「考えを伝え合い、学びを深め合う児童の育成」

～児童が学びの深まりを実感できる授業展開の工夫～

1 実践の目的

急速に変化し続ける予測困難な社会において、これからの学校教育においては、質の高い「確かな学力」や、「生きる力」を教育課程全体を通じて確実にはぐくむことが求められている。

本校では、「自ら考え、自ら行動し、心豊かでたくましい岩原っ子の育成」という学校教育目標のもと、日々の教育活動に取り組んでいる。この学校教育目標の実現をめざし、校内研究では、令和4年度から、「考えを伝え合い、学びを深め合う児童の育成」を研究テーマとして、「主体的・対話的で深い学び」を実現した児童の姿がより明確に見えるような授業づくりをめざし、3年間を見通した研究を進めている。

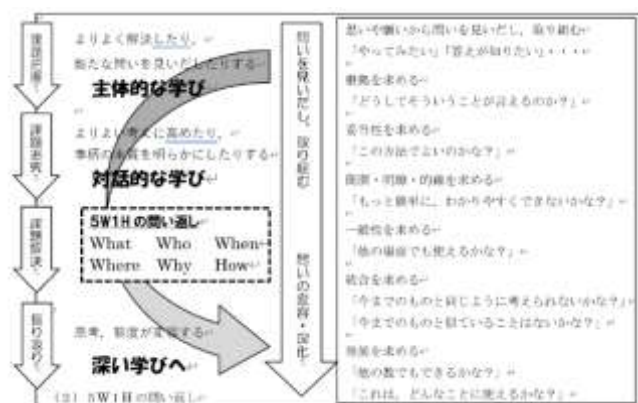
3年目となる今年度は、算数科の授業を軸とし、児童同士で考えを伝え合う活動の中で、多様な考え方について視点をもって比較、検討をしたり、自分の考えを再考したり、自分の言葉で「まとめ」を考えたりすることを通して、学びの深まりを実感できる授業づくりをめざすこととした。

2 実践の内容

(1) 問いの連続性と問い返しの発問

「問い」は、児童自身が主体的に進める上で必要なものであり、自力解決できるような「問い」をつくることが重要である。問題場面の吟味や出合せ方を工夫することを意識してきた。また、児童の発言やつぶやき、新たな疑問などに対して、その場で指導者が意図的に問い返し、考えをさらに深めさ

せるような場面をつくることで、「学びの深まり」をめざしてきた。



〈問いの連続性のイメージ〉

(2) 学びの振り返りの充実

振り返りは、自分自身の考えをメタ認知し、表現していくことで、児童の「見方・考え方」の育成につながるため、本校独自の「いわはら振り返りシート」を作成し、振り返る際の視点を児童にも分かりやすく覚えやすい形で明確化した。

振り返りの視点

- ① かせそうなこと ④ かったこと
- ② っけんしたこと ⑤ くにできそうなこと

単に、「今日の学習は楽しかった。」「発言できてよかった。」などといったことを振り返るのではなく、学習のめあてに照らし合わせて「授業を通して身に付いた学力」や「考え方や理解した内容の変容」などの内容を自分の言葉を使って振り返らせた。また、適用問題を行うことで個々の児童が学習について理解できているかを見取ることができる。さらに、発展問題にも取り組むことで、学習の理解を深めたり新たな課題を見つけたりすることもできると考えた。

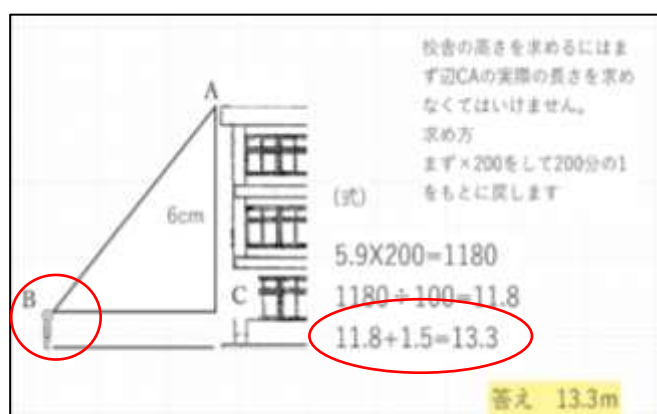
（３）授業グランドデザインの活用

３年間の研究の中では、毎年、岩原小学校独自の「授業グランドデザイン」を作成し、研究テーマの実現のために必要な授業展開や指導の工夫改善のポイントなどを全職員で共通理解してきた。

３ 実践の成果と課題

児童の発言やつぶやきを的確に拾い上げ、5W1Hの問い返しを意識しながら児童に対して繰り返し問い返しをしたり、３人組で話し合わせたりすることで、自分の考えについて再考して、学びが深まることをめざしてきた。

例えば、６学年「拡大図と縮図」の学習では、校舎の高さを求めるには、縮図から求めた長さに自分の身長分の長さを足さなければならないことに、児童の発言から気づかせることができた。そして、発表した児童の考え方の違いから、実際に校舎の高さがどこからどこまでなのか、身長分を足す必要があるのか再考させ、学びを深めることにつなげることができた。



児童の気づきなどをもとにした問い返しを行う等、児童同士で伝え合い学び合う場面を意識的に設けてきたことで、「研究に関するアンケート調査」（６月・１２月実施）では、協働的な学びに関する質問項目について、肯定的な回答をした児童の割合が上

昇した。

一方で、指導者と児童との１対１のやりとりや一部の児童の考えによって授業が進んでいくこともあり、クラス全体の児童が深まりを実感できるような場面は少なかった。今後は、児童同士でつなぎ、関わり合いながら学習活動が展開できることも視野に、つなぐことができた場面や深まりを実感できる場面で立ち止まり、価値づけることも重要である。

また、矢野英明先生（元帝京大学小学校相談役）からご示唆いただいたが、「学びの深まり」をどのように見取り、それを評価して指導に生かしていくかということは、今後も課題であると考えられる。

４ 今後の展開

「学びが深まった姿」は様々な姿として表れる。そのため、どんな場面で、どんな手立てをもっていくのか、どんな姿をねらうのかをよく考えて授業づくりをすることが重要である。「深い学び」を実現するためには、「問いの連続性」や「問い返しの発問」、「振り返りの充実」といった手立てだけでなく、「聞くこと・話すことの指導の工夫」や「考えをもち、表現するための指導の工夫」も積み重ねていきたい。

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、児童自らが課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、学んだことを日常生活に活かすことができる「生きる力」の育成につなげ、今後も研究に励んでいきたい。